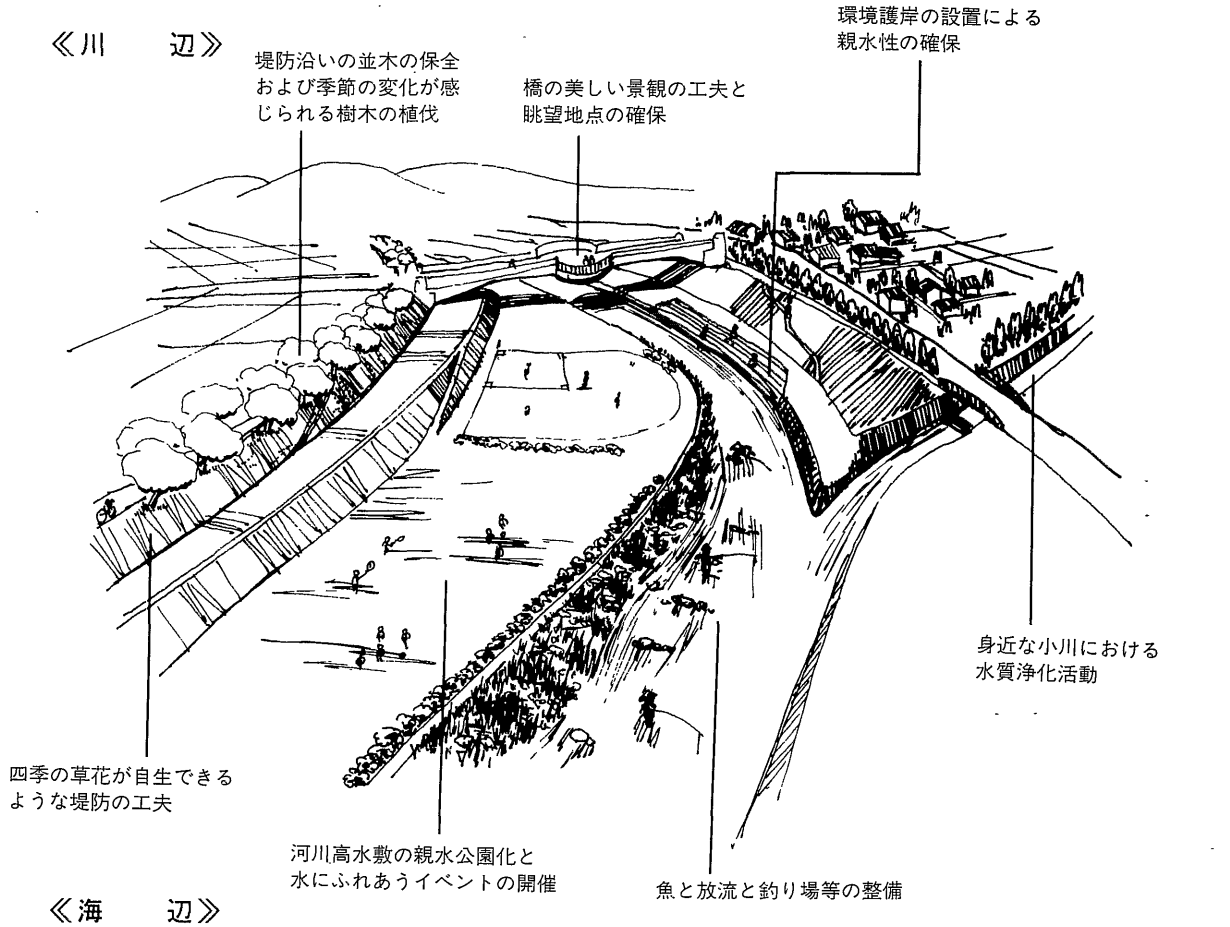
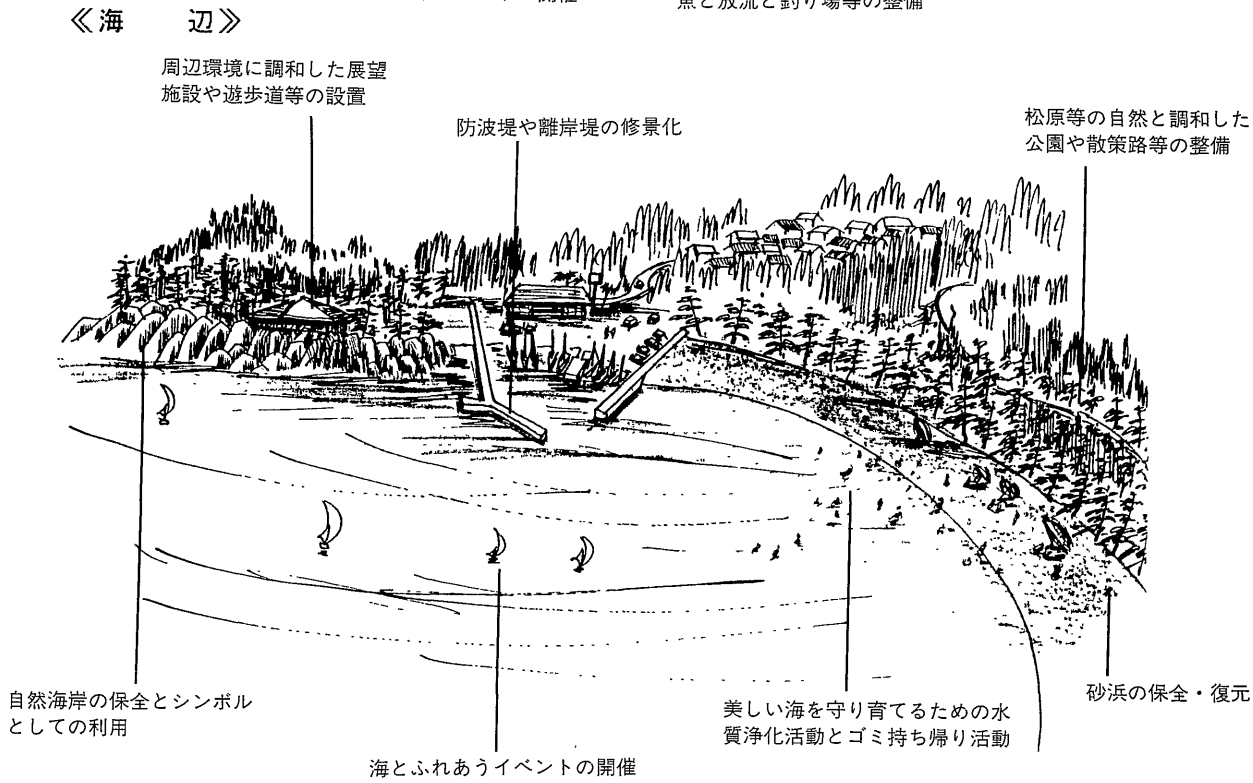
## ★　水のゾーンの施策・活動のイメージ

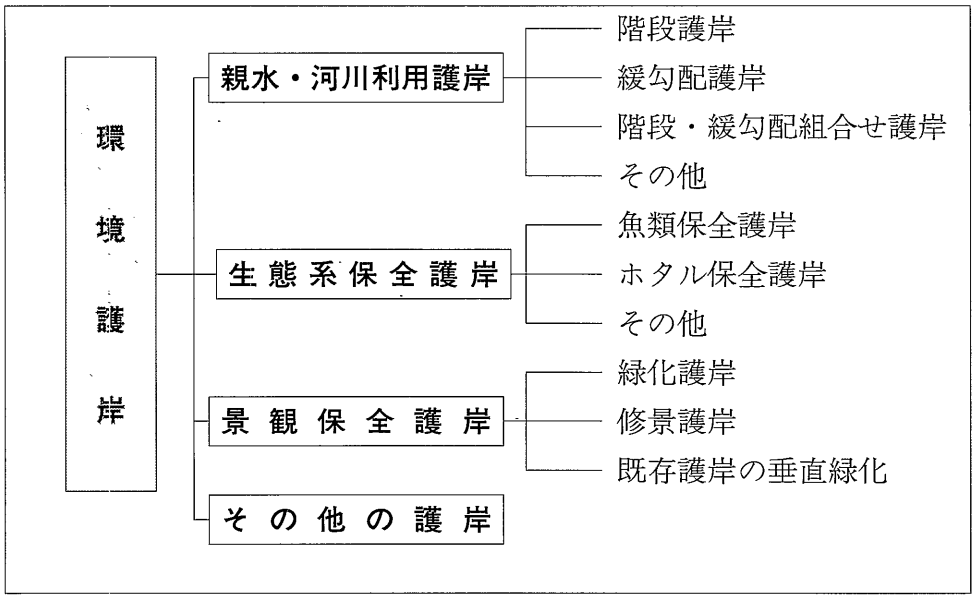


## ●水環境の保全を図る環境護岸の例

景観、親水性、生態系等の保全や利用性の向上等、環境の保全を図る護岸を総称して「環境護岸」といいます。

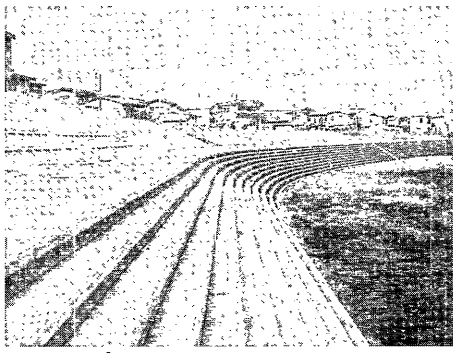
**環境護岸の種類**



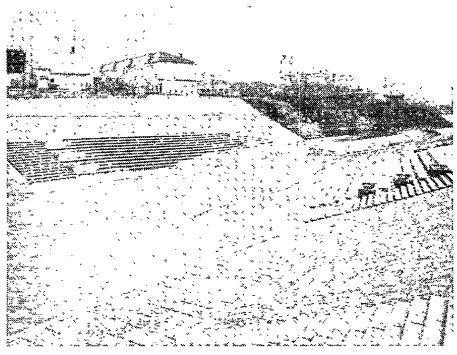

【親水・河川利用護岸】

・階段護岸 ――― 護岸を階段状にすることで、親水性や利用性を高めようとするものです。特徴的な利用としては、高水敷が球技場や運動場に整備された所にみられる観覧席護岸や船着場を兼ねたものなどがあります。

・緩勾配護岸 ――― 低水護岸の勾配を緩やかにし、高水敷と低水敷間のアプローチを容易にすることによって、親水性を向上させることを目的にしています。



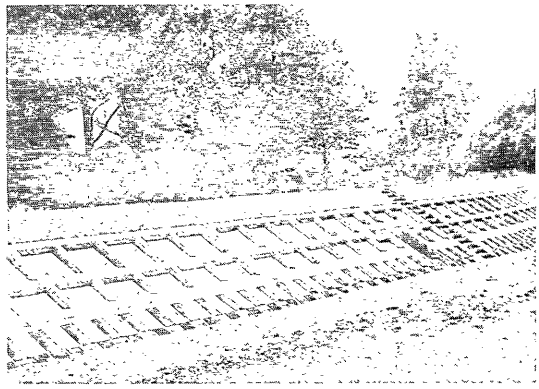
青森県大和沢川の階段護岸



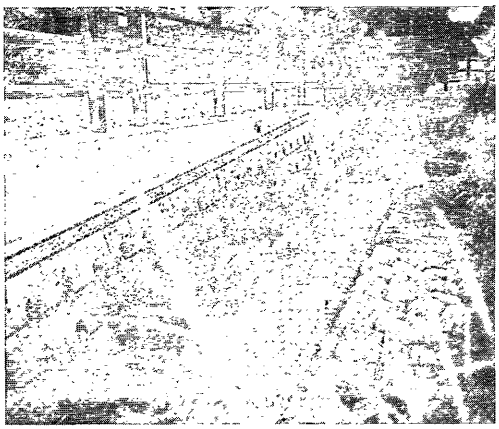
北海道奈井江豊平川の緩勾配護岸

【生態系保全護岸】

生態系保全護岸は、水中の生物や植物の産卵、成育、洪水時の避難場所としての機能をもつ護岸であり、魚類、ホタル、自然植生、野鳥などの保全を目的としています。



岩手県涼川の魚類保全護岸

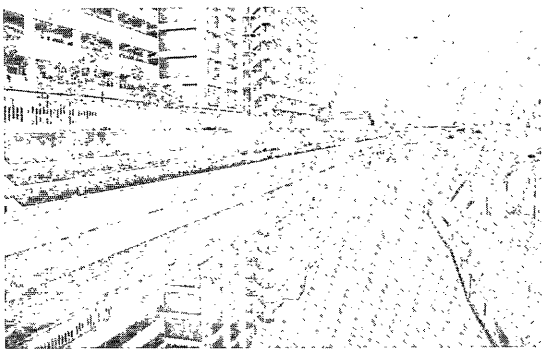


福岡県唐ノ原川のホタル保全護岸

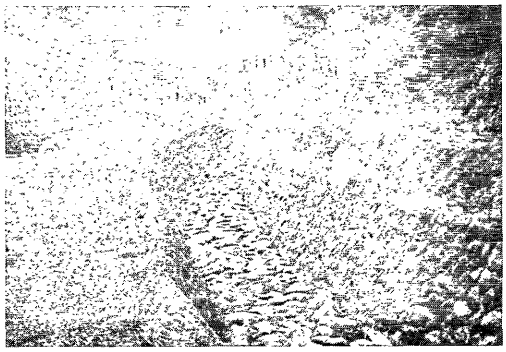
【景観保全護岸】

・緑化護岸 ――― コンクリート護岸などがもつ無味乾燥さを、護岸の一部に植栽することによって修景する工法です。緑化護岸には、用いるブロックや工法によって、法枠工植栽護岸、連節ブロック護岸、緑化ブロック護岸、コンクリートブロック植栽護岸などがあります。

・修景護岸 ――― 修景を目的として、護岸のデザインや素材などに配慮している護岸であり、自然石護岸やカラーブロック護岸、法枠ブロック護岸などがあります。



東京都仙台堀川の緑化護岸



修景護岸の例（今立町）

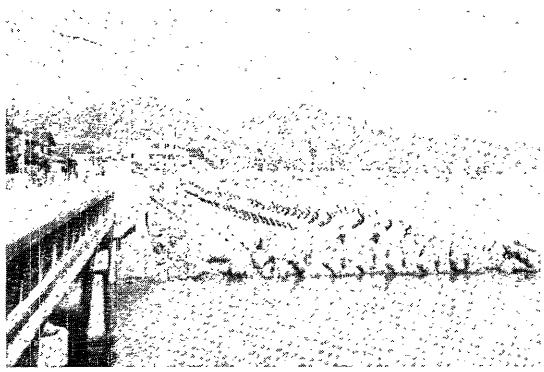
## ●水辺の復活と水質浄化作用

【砂浜の復元と水質浄化作用】

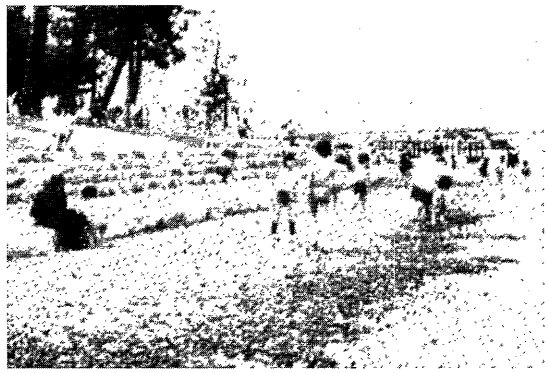
見た目に美しい白砂青松の砂浜は、水泳などレクリエーションの場としての価値が高いだけでなく、海や湖の水質浄化にも貢献しています。

砂粒の表面積は見かけよりずっと大きく、表面には微生物が無数に付着し、これらによる有機物の分解などを通して、水をきれいにしています。また、砂には、海や湖の富栄養化の原因となるリンを吸着する性質があります。

このようなことから、砂浜の保全だけでなく、一部の地域では、これまでのコンクリートの堤防や消波ブロックを撤去することなどによって、砂浜や磯浜を復元させようとする動きもみられます。



コンクリート護岸と消波ブロック

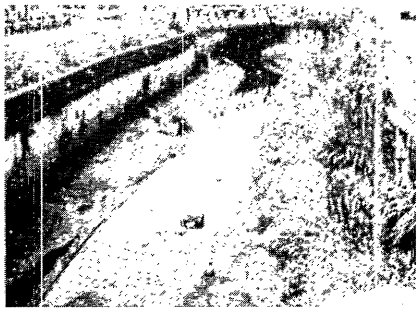


なぎさの復活（滋賀県大津市）

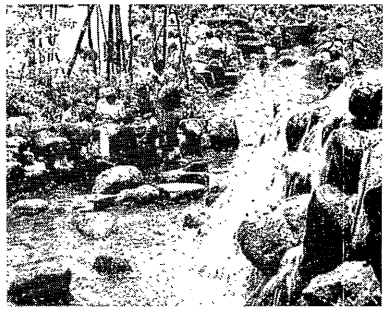
【まちの中のせせらぎの復活（東京都江戸川区の中小河川親水公園化）】

江戸川区の川は、かつては農業用水や舟運に利用され、水泳や魚取り、あるいは洗いものなど、生活の中にいかされてきました。しかしながら、昭和30年代後半から、家庭雑排水が流れ込み、ゴミと悪臭のドブ川と化しました。

こうした状況の中で、下水道事業が進み、これらの川は不要となったため、跡地利用の検討がなされました。現在では、古川親水公園や小松川境川親水公園などが整備され、河川としてのせせらぎの復活がなされています。



小松川境川（昭和55年）



小松川境川親水公園（昭和60年）

## ●周辺環境との調和を図った水辺開発の例



ダム周辺の修景化（清水町）

良好な自然環境の中にある滝波ダムでは、周辺環境と調和した緑化および修景化が図られています。



人工海浜化（小浜市）

小浜市鯉川海浜公園では、運輸省の「海岸環境整備事業」により延長800mの人工海水浴場が整備されています。

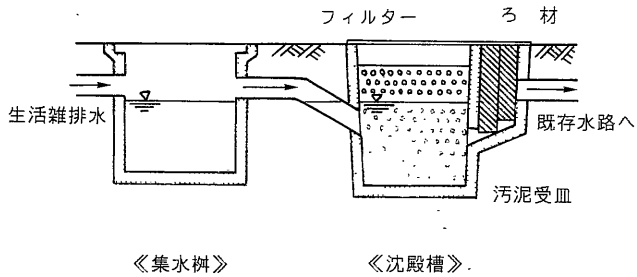
## ● 水をきれいにする例

・河川、海浜清掃活動 ――― 「川の日」、「河川清掃週間」、「海岸愛護月間」などを定めて、住民や事業所、各種団体などが協力しあって行います。また、ポスターや標語の募集、報道機関への協力要請などを行い、運動の普及・啓発を図ります。

・溜 桝 の 設 置 ――― 水路等にくぼ地（溜桝）を設け、汚泥を除去するもので、北潟湖や三方五湖周辺で行われています。

・コンポストの設置 ――― 生ごみなどを有機資源として有効利用（堆肥化）するとともに、ゴミ収集の省力化を目的として行います。

**浄化施設をつけた排水設置の概念図**



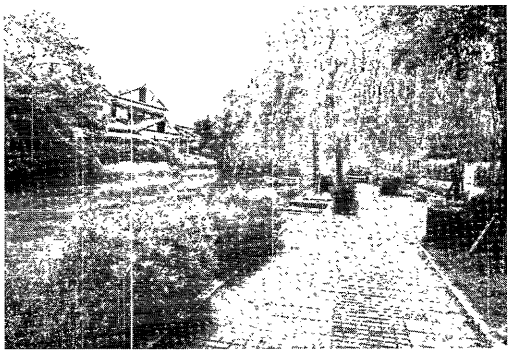

**家庭でできる浄化対策**

**① 流し台に三角コーナー、ろ紙袋などをセットして、調理くずや食べ残しは回収して流さない。**
**② 食用油や食器の油などは、紙などで吸い取って回収する。**
**③ 洗濯は、石けんをきめられた量を計って使用し、洗濯機にはくず取りネットを付けて、糸くずなどを回収する。**
**④ し尿浄化槽は正しく使用し、定期的に側溝を清掃して、残土等を回収し、河川へのヘドロ流出を未然に防止する。**

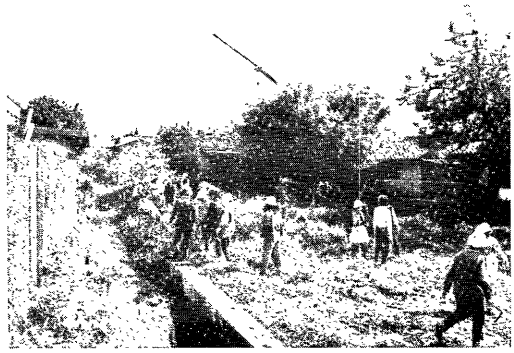
【全市民の手による歴史的水辺の再生（福岡県柳川市）】

水郷として知られる柳川は、市内を縦横にめぐる堀割によって、都市の基盤がつくられており、遊水池や農業用水、地下水の涵養などの機能のほかに、舟運や魚釣り、川祭りなどにも利用され、市民の暮らしと密接に関わってきました。しかしながら、戦後、農作業の省力化、舟運の衰退、上水道の普及などにより、維持管理がなおざりになり、急速に荒廃汚染が進み、川は親しみの薄い存在となりました。

このような中で、昭和52年にこれらを下水路に改変し、駐車場などにしようという都市計画が持ち上がりましたが、このとき市役所の担当係長が、堀割の機能と役割を見直し、むしろ浄化して生活に役立てることを逆提言し、これが市民に理解認識されました。このことにより、全市民によるまちぐるみの浄化活動が展開され、堀割はかつての清流を取り戻しました。今では沿岸の緑化や遊歩道化が進められており、潤いのある都市空間を市民や観光客が楽しんでいます。



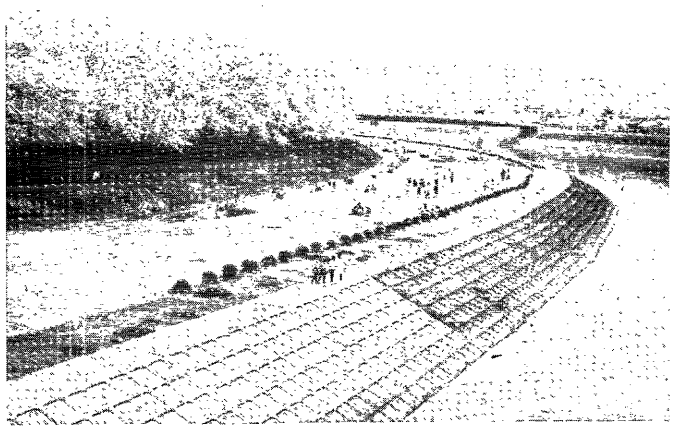
水辺のプロナード



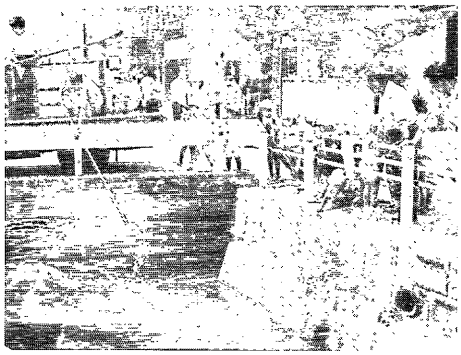
市民による河川美化活動

【まちの中の河川高水敷の親水公園化（福井市足羽川）】

足羽川は、足羽山とともに市民の憩いの場として位置づけられ、かつては、足羽川両岸一帯は３月になると、足羽山の緑を背景に桃花が咲きほこり、また、重要な水運の地でした。現在の足羽川は、桃花の代わりに桜が植えられ、花見やこいのぼりの季節、夏祭りの時は大変な賑わいを見せていますが、日常的にはかつての親しみはなくなっています。このため、日常的に足羽川へ市民を呼び戻そうと、現在、河川緑地として芝生広場や修景施設が整備されています。

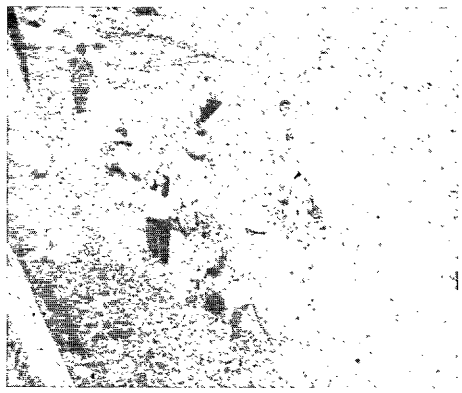


## ● 水を美しくする活動例



二夜の川を美しくする会（敦賀市）

二夜の川にコイ等の稚魚を放つ会員たち



海岸の清掃（越前町）

全員参加で海岸美化に努力する住民たち

## ● 水に親しみ、水とのふれあいを促進する活動例

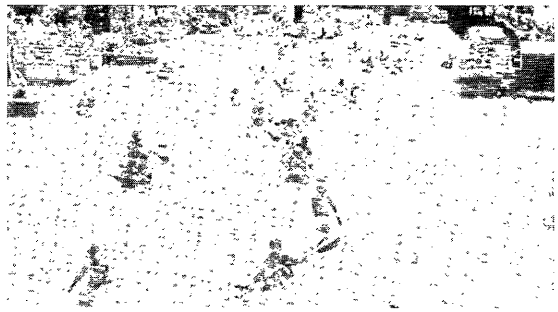
【「よこはまかわを考える会」のどぶ川イベント（横浜市）】

川に対する市民の関心を呼び戻し、水辺の活性化を図ろうという目的のもとに、昭和52年、市職員30名が中心となり「よこはまかわを考える会」をスタートさせています。これは、自分たちで川の新しい活用に挑戦してみようと、いくつかのイベントを実践するものです。

**（主要な活動）**

・屋形舟による夕涼み会
・カヌーフェスティバル
・クリーンフェスティバル

クリーンフェスティバルは河川清掃のイベント化ともいえる行事で、年１～２回行われ、清掃自身は、毎週行われています。イベントでは、バーベキュー、もちつき、シンポジウム、バンド演奏、ザリガニ放流、子供主役のアドベンチャーなどを行っています。



'88カヌーフェスティバル



大岡川クリーンフェスティバル

（資料：「市民の安全、環境」－シリーズ自治を創る15）